

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	教育実習		
英文授業科目名	Teaching Practice		
開講年度	2008年度	開講年次	4年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間・夜間主コース
授業の方法	講義・演習	単位数	0
科目区分	教職科目-教育実習-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科		
担当教官名	小林 基宏		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
なし	なし

【主題および達成目標】
<p>本授業は、今年度、教育実習に参加する者に必修科目である。</p> <p>(a) 主題：中学校、高等学校の教育現場で「教育実習」を実践するための、事前の心得全般を学習し、実践後の総括を実施する。</p> <p>(b) 達成目標： 教職課程の各教科で学習し身につけた、知識、能力、スキルなどを集約し、具体的に実践するためのノウハウの取得とイメージづくりを目指す。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
<p>教職免許取得のために必要な履修科目を、あらかじめ履修しておくことが原則。</p>

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
<p>教員養成のための履修科目であることの意義を十分に踏まえて、単なる資格取得ではない「教員志願」の気持ちを真摯に整え、学習を同じくする者と協調しながら「自らが目指す教師像」を創造する態度で臨むこと。</p>

【教科書等】
<p>教科書：とくになし。授業で必要な資料を配布。</p> <p>参考書：教育実習に関する多くの書籍があるので、各自、図書館等を利用すること。 なお、別途、教務課からの案内があるので注意する。</p>

【授業内容とその進め方】

授業内容と授業の進め方に関しては、年度による教育実習実施期間の状況に対応して流動的となるが、原則的には、次の段階で進められる。

- 1.教育工学的、形態的心理学的考察のもと、学習指導法の集約。
- 2.教科指導上の教案作成、実習日誌作成など各種ノウハウの学習。
- 3.生徒指導に関する法律的考察。
- 4.学校管理運営上の組織的考察。
- 5.教育実習中の自己健康管理法。
- 7.教員採用試験対策ガイダンス。

などに関して、教育実習期間の前に6回、後に3回の合計9回を目処に実施する。

当然のこと、教育実習現場が、各自、中学あるいは高校、と異なったり、教科も各種にわたるところから、その分野に関して、自分で参考書を調べたりする必要がある。そのために、授業以外に教案作成の演習および課題が課せられることもある。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

教員養成の観点から、資質の涵養とともにその達成努力が問われることになる。

- 1.実際の教育現場に臨むための教科学習であることから、授業全回出席が原則。
- 2.試験は実施しないが、教育実習中の実習日誌の記述内容と、実習先の担当責任者および学校長評価を以って達成度を評価する。
- 3.授業態度、課題の提出状況、内容等、教師としての資質と将来性を評価する。
などが評価の目処となる。

【オフィスアワー：授業相談】

授業内容の理解促進等のために、授業時間外で学生の質問・相談を、電話などで事前に予約を取った上での面談や書簡、電子メールで応じます。電話番号や宛先、メール・アドレスは授業で案内します。

【学生へのメッセージ】

将来的に「生徒が未知のもの、新しいことに興味・関心を抱くように導くのが教師の使命」ということを十分に理解し、「学習者支援」のための知識・能力・スキル開発などを授業を通じてしっかり考察し理解していけば難しい内容ではありません。

【その他】

とくになし。